

自治会・町内会まるごとミーティング 報告書

主催：守谷市自治会連絡協議会

今回は、8月に自治会・町内会の区長を対象に、事前アンケートを行いました。その結果をもとに、前半では、4つの自治会・町内会から、取組事例の紹介をしていただきました。後半は、テーマ別にグループになり、情報交換を行いました。

前半：事例紹介

下ケ戸町内会「地域全体で取り組む防犯」

- 町内会をひとつの家族のように考え、住民が帰宅するとホッと安心できるまちを目指している。
- 毎月、朝と夜にそれぞれ月1回ずつ、計2回のパトロールを行っている。
- 特に、夜のパトロールは、子ども達にとっては冒険のようで、楽しみながら参加してくれている。
- 「警戒中」と印字した蛍光色の紙をパウチして、全戸に配布し、門扉などに掲示し、防犯を呼び掛けている。
- 見慣れない人が町内を歩いている場合は、声を掛けるようにしている。

秋冬の様子
19時～20時



下ケ戸町内会「子どもも参加できる楽しい防災訓練」

- 防災活動は、年2回実施している。9月には地震を想定した防災訓練、11月には冬場の火災対策として初期消火訓練を行っている。
- 9月の防災訓練では、炊き出し訓練を兼ねて、皆で食事をするようにしている。
- バケツリレーは、消火に直接効果的とは言えないかもしれないが、協力意識を育てるには大変役立つので、お勧めしたい。
- 水消火器を使った疑似消火体験は、子どもも含め全員が参加する。

松ヶ丘自治会「ゴミステーション掃除当番の新たな取組」

- 掃除当番が順番どおりに回らず、住民の間で不公平感が生まれていた。さらに、引越しや新しい入居者の増加により、自治会員の入れ替わりもあった。そのため、掃除当番の負担が自治会員に偏ってしまい、掃除が滞ることが生じ、地域環境の悪化も懸念された。こうした課題を解決するため、新しい取り組みを始めた。
- 役員会で現状を調査し、見える化を進めた。各世帯が普段利用しているゴミステーションを調査した。非自治会員についても役員が一軒ずつ確認を行った。
- 情報が未加入世帯に届かないことも課題だったため、ゴミステーションに周知ポスターを掲示し、掃除当番への協力を呼びかけた。
- 掃除当番が順番どおりに回らないことの原因を分析したところ、手書きの当番表が分かりづらいという結論になった。

- ゴミステーションを利用している人全員に周知させる
↓
ゴミステーションにポスターを貼る
(9月)

ゴミステーションは
みんなきれいにしよう！

皆様から自治会のゴミステーションにご案内いただきありがとうございます。
ゴミステーションは、自治会員の皆様からご活用いただいております。
そのため、ゴミステーションが利用できなくなると、ゴミの収集に支障をきたす可能性があります。
ゴミステーションが利用できなくなると、ゴミの収集に支障をきたす可能性があります。



きれいな町をみんなで守りましょう。
ご協力をお願いいたします。 守谷市自治会

⇒新ルール①

年間の当番表を作成し、全ての世帯に配布する。

世帯の変更があった場合は、すぐに当番表を更新し、誰でも確認できる仕組みを作ること、透明性を高めた。



年間当番カレンダー

⇒新ルール②

ゴミステーション利用者に、ルール説明文を配付する。

未加入世帯にも、役員が直接、丁寧に説明したところ、快く掃除当番を引き受けてくれた。

つくし野町会「金属製ごみ集積所のすすめ」

- ・市内のゴミステーション（ごみ集積所）は、大きく分けて、合成繊維ネット式、鉄メッシュ式、金属製の3種類がある。
- ・つくし野では、長年合成繊維ネットを使用していたが、カラスや猫によるゴミの散乱、景観の悪化、夏場の悪臭発生、ネット等の維持管理、ステーションの清掃負担といった問題があった。
- ・金属製ゴミステーションを導入するに当たっては、金属素材ごとのメリット・デメリット、価格等の比較し、会員へのアンケートを実施した。その結果、アルミ製の製品を採用した。
- ・導入時の課題は、費用負担、自治会員の同意、製品選定であるが、多くのメリットがあるため、ステンレス製あるいはアルミ製のものを推奨する。

金属製ゴミステーションの比較

	メリット	デメリット	性能評価	価格(ゴミ30袋用)
スチール製	・安価 ・頑丈である	・錆にやや弱い	△	13万円~15万円
アルミ製	・錆に強い ・軽い	・やや高価	○	15万円~20万円
ステンレス製	・錆に強い ・耐久性がある	・高価	○	20万円~30万円

会員へのアンケート結果 ➡ アルミ製ゴミステーション

金属製ゴミステーション導入時の課題



薬師台二丁目町会「LINE WORKS(ラインワークス)を活用した役員会議」

- ・令和6年4月に会計担当者からLINEWORKS導入の提案があり、5月の会議で各役員に勧奨後、6月からスタートした。
- ・LINE WORKSとは、組織やチームの運営に役立つコミュニケーションツールで、利用者を限定して運用できる点が、LINEとの大きな違いである。
- ・運用上の留意点



■LINE WORKSの利用は、強制ではなく任意とする。

■資料は、LINE WORKS登録者にはオンラインで、未登録者には紙で配布する。

- メリット

役員会議中に、資料の修正が必要な場合、その場で訂正入力ができる。また、資料はスマホで閲覧可能なため、印刷や配布の手間が減り、プリンタのインク代や用紙代などの事務費を31.1%削減できた。

- 今後の課題

役員の構成は毎年変わるため、IT化の推進状況も変動すると予想される。年齢を問わず使いやすい仕組みを作るため、IT化推進のためのプロジェクト設立を検討する。

後半：情報交換会

後半の情報交換会では、防災、防犯、デジタル活用、役員のなり手・任期、加入促進、ごみ問題の6つのテーマに分かれて、9つのグループで話し合いを行いました。

最後に、各グループの代表者が、特に話題になった内容や全体に紹介したい事例を発表しました。



グループA テーマ：防災

- 課題として、費用が掛かること、高齢化が進んでいること、防災計画を立てる上での非会員の扱い、防災用品のローテーションの難しさ、要支援者対応が不十分であること、自主防災組織メンバーの固定が困難、などが挙げられた。
- 話し合いの中で、「防災協力委員会」を設置している自治会があった。そこに参加してもらうことで、1年単位ではなく数年単位で関わる人材の体制を作っている、とのことである。

グループB テーマ：防災

- 松ヶ丘7丁目自治会から、利根川遊水地に近い土地柄を踏まえ、水害対策に取り組んでいるとの情報提供があった。松ヶ丘7丁目が行った活動の流れは、概ね次のとおり。
 - 守谷市役所の各課へ相談した。
 - ハザードマップや内水浸水想定区域図等から、情報を収集・整理した。
 - 防災倉庫の確認をした。
 - 補助金制度を活用し、土のう袋を購入した。

グループC テーマ：防災

- 課題として、運営方法（防災訓練の内容がありきたりになっており、町内の関心が薄れている）、備蓄品の活用、継続性への懸念が挙げられた。
- 有事の際の連絡手段が確立していない。LINE WORKSを導入したが、登録する人やアプリ運営の主軸となる人がいない。
- 防災活動は自治会だけで頑張っても限界がある。未加入世帯をどうするか。
- 防災訓練のイベントをお祭りと一緒に開催し、住民の関心を高める工夫をしている。
- アルファ米等の購入に関して、5年に1度の市の補助金支給では、更新や整備が難しい。
- 下ヶ戸町内会による炊き出し訓練の考え方は参考になった。

グループD テーマ：防犯

- 地域での空き巣被害が数件あった。2階でも雨戸を外して、窓を割って侵入された。
- 門灯の点灯は効果的である。
- 人の目が最も効果的であり、住民が黄色い防犯ベストを着用して、遠くから声を掛けるだけでも抑止効果が高い。接近戦でなくても、不審者は逃げていく。
- 隣近所は、5軒くらいは親しくしておくことが望ましい。
- 防犯や防災の対策には、費用が掛かることが課題である。

グループE テーマ：デジタル活用

- 自治会の規模は、50世帯未満から500世帯超まであり、課題も各自治会ごとに異なり、グループ内では多様な取組事例の情報交換が行われた。
- デジタル集金を実際に導入している自治会もあり、効率化が図られている。
- 役員会は、マイクロソフト社のTeamsを活用し、会議内容の記録や議事録作成が自動化されているため便利である。
- アンケートにはグーグルフォームを使用している。
- 課題としては、セキュリティ面が挙げられる。
- まずは、役員会など、小規模な会議からデジタル活用を導入してみるなど、スモールスタートで試行することが大事である。

グループF テーマ：役員のなり手・任期

- 会費の集金方法など、各自治会における運営についての情報交換をした。
- 役員の前任者と新任者が重複する期間を設けることで、円滑に引継ぎができるようになり、新任者の精神的負担が軽くなるため、継続性も期待できる。

グループG テーマ：加入促進

- 高齢化や担い手不足、未加入者の増加などにより、地域のつながりの低下が見られる
- 役員や班長になることへの負担感、自治会加入のメリットを感じない、加入のきっかけがないことが未加入の要因となっている。
- 回覧板が回るのが遅いというのも、住民の不満の一つとなっている。回覧板に各世帯の受取日を記載する欄を設けるという工夫で、回覧板の回りが早くなった。

グループH テーマ：ごみ問題

- 課題は、不燃ごみや資源ごみの分別が十分に行われていないことである。事業系ごみの混入や未加入世帯の取扱いも問題となっている。
- 原因の一つとして、令和7年4月に実施された不燃ごみのルール改定が分かりづかった点が挙げられる。改定当初は分別誤りがあっても回収されていたことが、かえって分別の誤りを助長した可能性がある。
- 自治会が未加入世帯に対してごみ問題の説明を行うことが重要である。
- 掃除当番を全員で行うことで、いい加減な分別を抑制する効果が期待できる。
- ゴミステーションの修理や工事に備えて、自治会の資金をストックしておくことも必要である。

グループI テーマ：ごみ問題

- 課題として、駅前の地域であるため、通りすがりにごみを捨てていく人がいる。また、ルール違反のごみ投棄も絶えない。
- 【未加入世帯への対応の好事例】以前、ゴミステーション未設置の集合住宅が分譲された際、無断で自治会のゴミステーションが使われていた。未加入世帯に、自治会加入について、丁寧に説明した結果、全16世帯が加入してくれた。
- ゴミステーションを常に清潔に保つことは、ポイ捨ての減少に有効である。
- 掃除当番表を作成し、確実にゴミステーションの清掃を徹底することが有効である。
- ゴミステーションの形状変更や施錠方法の検討必要である。